

沖縄諸島産の“スエヒロガニ”について

Notes on “*Medaeops granulosis* (Haswell, 1882)” (Crustacea: Decapoda: Brachyura) from the Okinawa Islands, Central Ryukyus, Japan

前之園唯史

Tadafumi Maenosono

株式会社かんきょう社, 沖縄県浦添市経塚1-4-5 (102)
Kankyosha, 1-4-5 (102) Kyozyuka, Urasoe, Okinawa 901-2111, Japan.

e-mail: maenosono@kankyo-sha.co.jp

Abstract

In the recent study, the identification of the xanthid crab species from Japan previously reported as *Medaeops granulosis* (Haswell, 1882) has been changed to *M. japonicus* (Rathbun, 1898). The present study clarified that the “*M. granulosis*” from the Okinawa Islands of the Central Ryukyus is not *M. japonicus*, but true *M. granulosis*. It also revealed that *M. japonicus* has a single protrusion on the inner angle of the cheliped carpus, whereas *M. granulosis* has two.

Key words: Xanthidae; *Medaeops granulosis*; *M. japonicus*; Central Ryukyus; distinguishing characters

緒言

オーストラリアをタイプ産地とする *Medaeops granulosis* (Haswell, 1882) は、インド洋東部から西太平洋までの沿岸域に分布するオウギガニ科のカニである。従来、この *M. granulosis* の分布域には東アジアの全域が含まれており (Mendoza and Ng 2010)、日本ではスエヒロガニという和名で呼ばれていた (例えば、酒井 1936; Sakai 1965, 1976; 三宅 1983; 和田 1995; 前之園 2021)。

近年、Yuan et al. (2023) は中国大陸沿岸の複数の産地から得た “*M. granulosis*” の標本群を精査し、福建省廈門市以南に生息する種が真の *M. granulosis* であり、浙江省舟山市以北に生息する種に対しては、*M. granulosis* の新参シノニムとされていた *Lophopanopeus japonicus* Rathbun, 1898 (タイプ産地: 日本) を復活させ (*Medaeops* として)、日本および朝鮮半島に分布する個体群も *M. japonicus* であるとした。この研究成果によって「スエヒロガニ」に適用される学名は *M. japonicus* となった。

筆者は沖縄島から “スエヒロガニ *M.*

granulosis” を報告したが (前之園 2021)、沖縄島の緯度は、中国沿岸におけるスエヒロガニの南限 (浙江省舟山市: 屋久島とほぼ同緯度) と *M. granulosis* の北限 (福建省廈門市: 宮古・八重山諸島とほぼ同緯度) の間であるため、沖縄島の種がどちらであるのか再確認が必要である。

今回、沖縄島および屋我地島から採集された標本を精査したところ、*M. japonicus* (=スエヒロガニ) ではなく、真の *M. granulosis* と同定されたためここに報告し、スエヒロガニとの識別形質についても若干の議論を行う。

材料および方法

本研究で使用した標本は、70%エタノールの液浸標本として琉球大学博物館風樹館 (RUMF: Ryukyu University Museum, Fujukan) に収蔵されている。標本の大きさは甲長 × 甲幅で示した。甲域の名称は Dana (1851, fig. 1) の図に従ったが、甲の前側縁の歯の数は Yuan et al. (2023) に従い、眼窩外歯の直後の歯 (Dana 1851, fig. 1, E) を第1歯とした。

結果および考察

オウギガニ科 Xanthidae MacLeay, 1838

スエヒロガニ属 *Medaeops* Guinot, 1967

ナンカイスエヒロガニ (新称)

Medaeops granulatus (Haswell, 1882)

(Figs. 1A–D; 2A, B)

検討標本

RUMF-ZC-7848、5 雄 (7.1×10.0、7.5×10.9、7.6×11.0、11.4×16.8、12.2×18.3 mm)、2 雌 (7.6×11.0、10.3×15.1 mm)、沖縄島沖縄市泡瀬、2025 年 1 月 28 日、前之園唯史・田賀麻美採集；RUMF-ZC-7849、1 雄 (15.8×23.1 mm)、屋我地島、2025 年 1 月 31 日、前之園唯史採集。

比較標本

スエヒロガニ *Medaeops japonicus* (Rathbun, 1898) : RUMF-ZC-7850、3 雄 (12.1×17.8、12.7×18.9、15.9×24.4 mm)、1 雌 (7.8×11.2 mm)、鹿児島県指宿市山川児ヶ水漁港、2025 年 1 月 2 日、前之園唯史採集。

同定

沖縄諸島産の検討標本は、次の 7 つの特徴を持つことにより *M. granulatus* (Haswell, 1882) と同定された (角括弧内はスエヒロガニの特徴) : (1) 甲の前側縁第 1 歯は後続の歯よりも小さいが明瞭で、前面観でもはっきりと認識できる [第 1 歯は非常に小さい] (Fig. 1A–C vs. Fig. 1E–G) ; (2) 甲の前側縁周辺 (1–4L) および原胃域 (2M) の顆粒は明瞭で、横方向に並んだ列を形成する [同部位の顆粒列は不明瞭] (Fig. 1B vs. Fig. 1F) ; (3) 5L の全域および 6L の前半部に顆粒を備える [5L は前半部のみに顆粒を備え、6L は顆粒を欠く (小型個体では 5L 前半部の顆粒も欠く)] (Fig. 1B vs. Fig. 1F) ; (4) 6L の膨らみは明瞭 [同部位はほぼ平坦] (Fig. 1B vs. Fig. 1F) ; (5) 下肝域と頬域は顆粒で覆われる [下肝域は顆粒で覆われるが、頬域の顆粒はごく僅か] (Fig. 1C vs. Fig. 1G) ; (6) 鉗部の不動指の黒褐色は掌部まで広がらない [この黒褐色は掌部の下部まで広がる] (Fig. 1D vs.

Fig. 1H) ; (7) 雄の第 1 腹肢の外側面に並ぶ棘状毛は一樣に短い [この棘状毛は第 1 腹肢の先端付近で長くなる] (Fig. 2B vs. Fig. 2D)。

これらの識別形質の他に Yuan et al. (2023) は、*M. granulatus* の雄の第 1 腹肢の先端部は鈍頭で、外側に巻かれた領域は短いのに対して、スエヒロガニの雄の第 1 腹肢の先端部は鋭利で細く、外側に巻かれた領域は長いことを挙げているが、本研究ではこの違いを認識できなかった。また、Yuan et al. (2023) が示した両種のシノニムリストに挙げられている既存文献の第 1 腹肢の図を見ても Yuan et al. (2023) の記述と異なる形状が多い。Yuan et al. (2023) は上記の特徴を説明する際に線画 (fig. 2) ではなく、走査型電子顕微鏡写真 (fig. 3) に参照を与えているため、実体顕微鏡では確認が難しい識別点なのかも知れない。

ところで、上記の通りスエヒロガニは、鉗部不動指の黒褐色が掌部まで広がるとされているが、本研究で比較標本として使用したスエヒロガニのうち、唯一の雌 (7.8×11.2 mm) はこの黒褐色が掌部まで広がらず、*M. granulatus* の標本群とは識別できなかった。しかしながら、吉崎 (2018, p. 100; 2022, p. 129) に掲載されているスエヒロガニの雌も鉗部の黒褐色が掌部まで広がっていない。したがって、この形質が有用なのは雄のみである。

本研究では、鉗脚の腕節の形態も 2 種間で異なることがわかった。両種ともに腕節の上面内角に突起を備えるが、*M. granulatus* ではこの突起の直下にも小さいながら明瞭な突起を備える (特に大鉗脚で明瞭) のに対して、スエヒロガニでは下の突起が極めて不明瞭もしくは完全に欠如する (Fig. 2A vs. Fig. 2C)。

和名

スエヒロガニの学名が *Medaeops japonicus* になったことによって、*M. granulatus* に対応する和名がなくなった。本種はスエヒロガニよりも南に分布するため、「ナンカイスエヒロガニ」の和名を提唱し、和名の基準となる標本に本研究の検討標本 (RUMF-ZC-7849、雄、15.8×23.1 mm) を指定する。

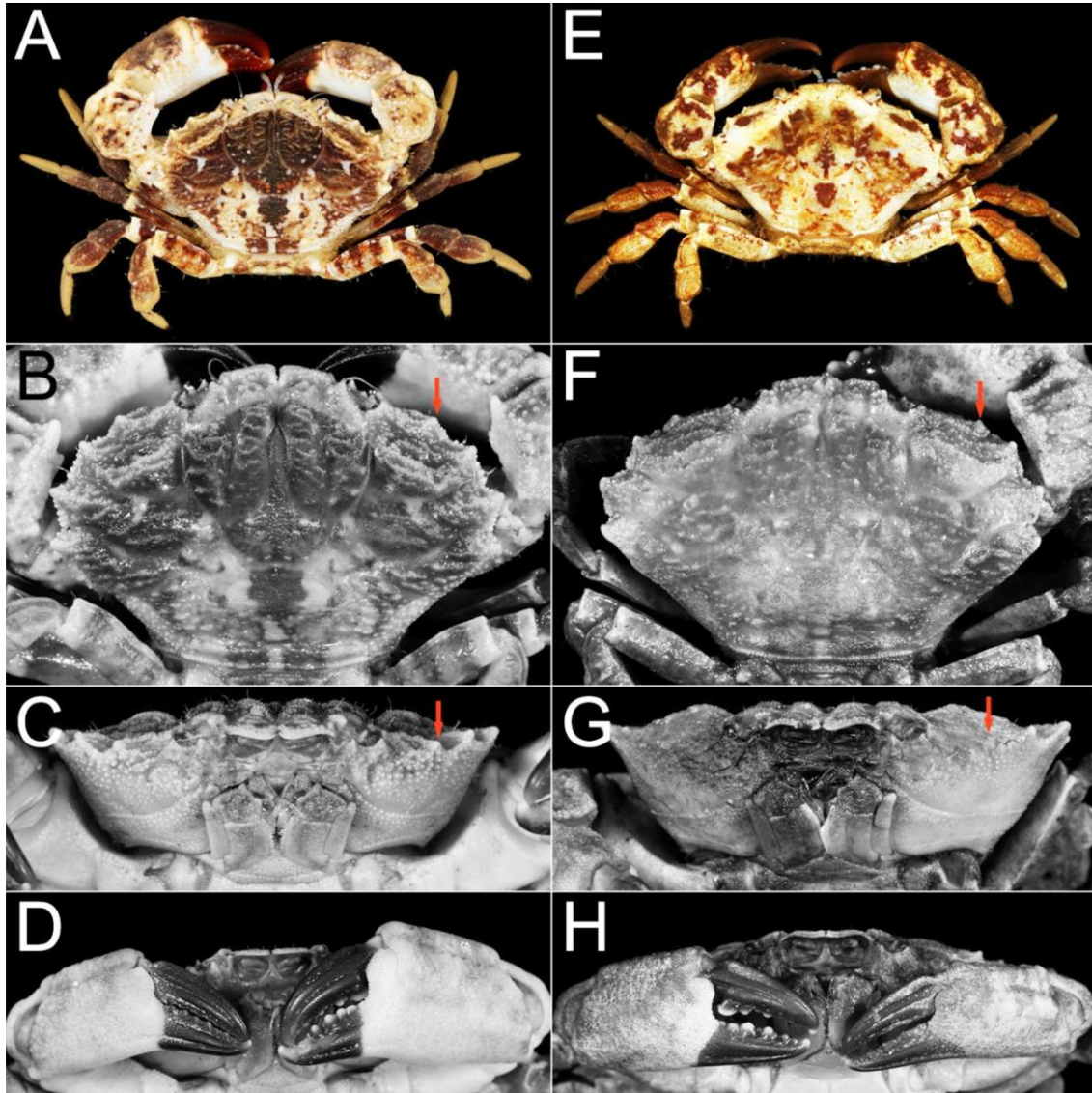


Fig. 1. *Medaeops granulosis* (Haswell, 1882) (A–D, RUMF-ZC-7849, male, 15.8 × 23.1 mm) and *Medaeops japonicus* (Rathbun, 1898) (E, H, RUMF-ZC-7850, male, 12.7 × 18.9 mm; F, G, RUMF-ZC-7850, male, 15.9 × 24.4 mm). A, E, entire animal, dorsal view; B, F, carapace, dorsal view; C, G, cephalothorax, anterior view; D, H, chelae, outer view. Arrows indicate first anterolateral tooth.

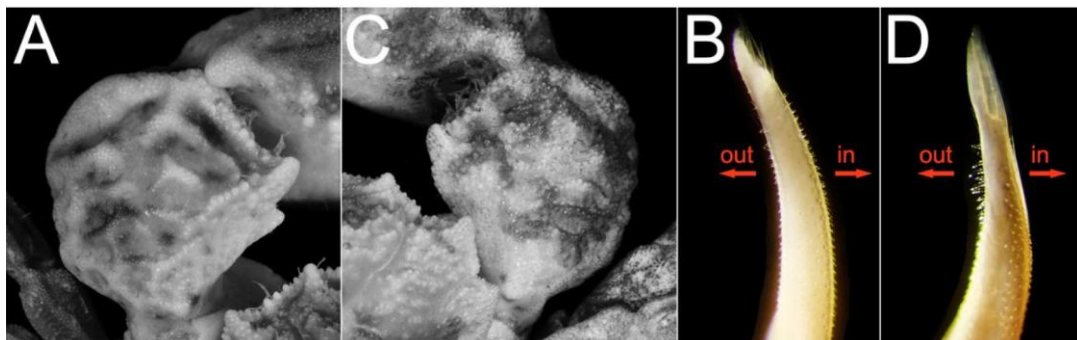


Fig. 2. *Medaeops granulosis* (Haswell, 1882) (A, B, RUMF-ZC-7849, male, 15.8 × 23.1 mm) and *Medaeops japonicus* (Rathbun, 1898) (C, RUMF-ZC-7850, male, 12.7 × 18.9 mm; D, RUMF-ZC-7850, male, 15.9 × 24.4 mm). A, C, carpus of major cheliped (A, left; C, right), upper view; B, D, distal part of left first gonopod, lateral view. Arrows “out” and “in” indicate outer (ventral) and inner (dorsal) directions, respectively.

謝辞

本研究を進めるにあたり、成瀬 貫氏（琉球大学熱帯生物圏研究センター）には文献の入手および標本の収蔵に関してご協力いただき、田賀麻美氏には標本の採集調査および英文作成の際にご協力いただいた。本稿の改訂にあたっては、匿名の査読者 2 名および本稿の担当編集者に貴重なコメントをいただいた。以上の方々に厚く御礼申し上げます。

引用文献

- Dana, J. D. (1851). On the markings of the carapax of crabs. *Am. J. Sci. Arts, Ser. 2*, 11: 95–99.
- 前之園唯史 (2021). 日本初記録種を含む琉球列島産スエヒロガニ属 (十脚目: オウギガニ科) の 2 稀種. *南紀生物* 63: 81–84.
- Mendoza, J. C. E., Ng, P. K. L. (2010). The euxanthine crabs (Crustacea: Brachyura: Xanthidae) of the Philippines. *Raffles Bull. Zool.* 58: 57–74.
- 三宅貞祥 (1983). 原色日本大型甲殻類図鑑 (II). 保育社, 大阪.
- 酒井 恒 (1936: imprint 1935). 日本蟹類圖説. 三省堂, 東京.
- Sakai, T. (1965). The Crabs of Sagami Bay collected by His Majesty the Emperor of Japan. Maruzen, Tokyo.
- Sakai, T. (1976). Crabs of Japan and the Adjacent Seas. Kodansha, Tokyo.
- 和田恵次 (1995). 短尾下目. 原色検索日本海岸動物図鑑 II, (編) 西村三郎. 保育社, 大阪, p. 379–418, pls. 101–118.
- 吉崎和美 (2018). 天草のカニ類写真図鑑 天草の海辺で見つけたカニたち. 一粒書房, 半田.
- 吉崎和美 (2022). 海辺でカニを探す図鑑—天草のカニ類 114 種の名前と特徴が写真でわかる. 22 世紀アート, 東京.
- Yuan, Z., Jiang, W., Sha, Z. (2023). *Medaeops* Guinot, 1967 (Brachyura, Xanthidae) from China seas, with the resurrection of *Medaeops japonicus* (Rathbun, 1898). *J. Oceanol. Limnol.* 41: 2403–2417.

Received: 14 April 2025 | Accepted: 5 May 2025 | Published: 8 May 2025